

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第2・3章 番外編 パート5  
黙示は交わりの中で示される

.....  
このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238

Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

その音によって、私は目を覚まし行動を起こします。もし、聞くことができなかつたら、私は眠り続け、ベッドの上で殺されてしまうでしょう。

聞かなければ。

このように耳はとても大切で、なくてはならない器官なのです。

何を聞くのですか？「御霊が言うことを。」御霊が誰に言うのですか？「諸教会に。」

御霊が教会に言うことを聞くのです。

もし、あなたが耳を塞いで、「聞きたくない」と言うなら、あなたは霊的に大変危険な状態になり、殺されてしまうのです。

なぜなら、主は教会におられるから。あなたや私がどう思おうと全く関係ない。

2章と3章、それが神の計画なのです。

さて、これから七つの手紙を読んでいきますが、同時にメモを取ることをお勧めします。

七つの教会に向けた七つのメッセージ。神は基本的に同じ順番で語っています。  
では、その3つの順番に注目して下さい。

第1番目は肯定的に認め、褒めること。

神は、エペソの教会の「労苦と忍耐」、スミルナの「苦難に対する勇敢さ」、ベルガモの「忠実な証人であること」、テアテラの「愛と信仰、成長している行い」について褒めました。他の教会に対しても同様で、それぞれの長所を認め褒めています。  
しかし、例外が、つまり、褒められていない教会がありますから、自分で探してみてください。

第2番目は変わるべきことについて訓戒と懲らしめ。

これは興味深い。

エペソには「初めの愛から離れてしまった」、ベルガモには「偽教師を野放しにした」、サルデスには「無関心と怠慢の中で死にかけている」、テアテラには「集会の中に不品行がはびこっている」、ラオデキヤは「物質主義に走っている」  
幾つかの例外はありますが、ほとんどの場合、主はポジティブな評価に続けて、正すようにと訓戒を語られます。

第3番目は永遠への励まし。

これは是非書き留めて下さい。

主はそれぞれの教会に、正しいことを行うように、天国を見据えて訓戒を受けると励ましているのです。

天国、天国、天国。

主はどんな状況に於いても天国を見据えて語られました。

エペソには「訓戒を受け入れる者には、神のパラダイスにあるいのちの木の實を食べさせよう」、スミルナには「死に至るまで忠実であるならば、いのちの冠を与えよう」、ラオデキヤには「彼と共に食事をし、わたしと共にわたしの座に着かせよう」、ベルガモ、ここは私が好きな箇所です。「訓戒を受け入れるなら、天国で新しい名を与えよう」

なぜここが好きか。

誰にでも例外なく、その人の名前を聞くだけで忌々しく思う人がいるものです。どこかで誰かがあなたのことを嫌っている、あなたに幻滅している、また、あなたによって傷つけられたか、嫌な思いをしたことがある。その人は、あなたの名前を聞くだけで、「うう〜。」ある人にとっては、あなたの名前は忌々しいのです。そういうわけで、この地上は膨大な数の忌々しい名前であふれている。

しかし、ここに、良いニュースがあるのです。

天国に行くとき新しい名前が与えられるということ。まっさらな名前。

天国で誰かが「ジョン・コーサン…あいつ、何なんだ!?!」と言うと、「誰だ、それ?」と私は答えます。「私じゃない。」

私には新しい名前が与えられるから。キリストに在る新しい私、新しい名前。

全てが新しく創られ、イザヤが言った通り、過去のことは全て忘れ去られる。

栄光あれ!!

主は、それぞれの教会に永遠への思いを与え、勇気づけました。

ここで、お父さん、お母さん、それから、上司、教師、雇用主の人たちも、全員よく聞いて下さい。

これら3つの事項は、人と接する立場にある全ての人々に必要な事です。

肯定的に認めること、修正するための訓戒、それと永遠への励まし。

認めること。完全な悪人なんていません。誰にでも、何かしら褒めるところがあります。

と共に、訓戒も必要です。完璧な善人もいないから。私たちが関わる全ての人たち、子供たちには訓戒が必要なのです。

そして、永遠への励まし。

あなたは、崩壊寸前の夫婦、くじけそうな若者、病気に苦しむ人、そういう人たちと話し、一時的な慰めを言うことがあるでしょう。「頑張れ。いつか良くなるから。」(ならないかもしれない…。)「頑張れ。それを通して成長するんだ。」(できないかもしれない…。)

イエスが人と関わる中で用いた、ただ一つの真実な励ましは“天国”でした。

どんな場面でも、イエスは人々に言いました。

「道を逸れてはいけません。信仰を捨てるな。天国が待っているから。」次から次へと続けます。「そこには、いのちの木があり、冠が与えられ、新しい名前が付けられる」—イエスが人々を戒め、支え、励ますために用いたのはただ一つ、“天国”なのです。

天に属している人たちは皆、最終的には天国に行きます。だから、全て大丈夫。

しかし、もし父親としての私が、子供たちが思春期の難しい時期を乗り越えることだけを助けたとしたら、それは間違いです。子供たちがただ大人になるようにと育てていたら、それでは不十分なのです。もし、老後のための備えだけを教えたとしたら、それは愚かなこと。

なぜなら、たとえ、子供たちや孫たちの人生を成功に導いたとしても、お金を貯めたとしても、老後の素晴らしい計画をたてたとしても、何か賞をもらったとしても、彼らが

永遠に関して貧窮していたら、そんなものが何になるでしょう。

私たちは親として肝心な事を何ひとつしていないことになるのです。

2章と3章で語られている褒美をもらえないとしたら、これらのものは全て無益で空っぽで虚しいだけです。

私が息子や娘たちに天国の富を教えながら、永遠の世界の大きさ、素晴らしさについて語り続けて育てたなら、たとえ彼らがこの世で賞をもらえないとしても、お金がないとしても、贅沢ができないとしても、それが何だと言うのです？

人生は霧のようなもの。天国が全てなのです。

興味深いことに、イエスは「あなたがこれを乗り越えたら、今、幸せにしてあげよう。」

とか、「ここで頑張ったら、今日、健康な体を与えよう。」とは決して言いませんでした。

決して、絶対に、一回も。

各教会に宛てた手紙を読んでみて下さい。

これらのメッセージを聞いて私は言います。「主よ！分かりました！」

肯定し認めること、訓戒による勝利、永遠への励まし。見事にバランスがとれている。

これが、主が教会でなさっている美なのです。

他に行く場所なんてない。他に属する場所はありません。

甘ったるい、ニューエイジ的なフワフワした思考ではなく、そうではなく、

「神は、実に、ひとり子を死に渡されたほどに、あなたを愛されている。」「今や、あなたは小羊の血によって洗い流され、あなたの罪は赦された。」「あなたは、白い義の衣を着せられ、花嫁として選ばれた。」「あなたは愛されている。」

これらのポジティブなメッセージは、教会で、教会の中で、教会に対して、私たちが教会として集まった時に聞くことができる。

御霊は、本当の意味での、真実のポジティブなことばを教会の中で、教会を通して語るのです。

それから、戒めと勧告。

あなたは集会に集っている時に、みことばを読みながらこのように思うことがあるでしょう。「それは聞きたくない。」(でも、聞かなければ。」「それには関わりたくない。」(でも、やらなければ。)

それは丁度、車のメンテナンスを受けに行くようなものです。うまく回っていないだけで、車自体が走らないわけではない。車は走っています。ガタガタと。それを整える必要があるのです。

多くの人の人生もそうでしょう。「確かに走ってはいるけれど。」と言いたくなるような、毎朝ガタガタしている状況。だから、メンテナンスが必要なのです。

それをどこで受けられるかと言うと、教会です。

「御霊が言われることを聞きなさい。」とは、「一人で」ではなく、「個人的な瞑想の中で」でもない。

「御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」それが教会を通して与えられた日に。

今でもそうです。今日も私は聞く必要があるのです。金曜日の朝、スタッフの報告に耳を傾け、月曜日の夜、息子が言うことを聞き、また、この場所に集まっている人々の話も聞く。

そうでなければ、「本当にその通りだ。今すぐ私の考えを変えなければ。」ということに気付かないのです。ラジオのクリスチャン番組を聞いて、また、教会を通して御霊が私に語られることを聞かなければなりません。

勿論、私は、自分が主に愛されていることを知っています。神学的にも理解しているし、心の中でも分かっています。

でも、そのことを詩や歌にして、何度も何度も聞く必要があるのです。常に確認して気付くのです。「そうだ。私は愛されているんだ!」「そうだ。大切なのは永遠の世界であって、今思い悩んでいる事なんて小さなことだ!」

そして、こう言うのです。「何てことだ。大切な天の王国のことを忘れていたなんて!」それから 14 時間ほどは、私も覚えているのですが、暫くすると、再び小さなことに囚われ始めて見えなくなってしまう。それでまた教会に戻って来て、「主よ、みこころのままに…」と祈るのです。

しかし、ここも含めて教会は完璧ではありません。何年もの間、いつも言っていますが、もし完璧な教会を見つけても、絶対に参加してはいけません。あなたがそこを台無しにしてしまうから。

完璧な教会なんてありません。

家族も同じです。

この交わりの場は、シミひとつないテーブルクロスの上に食器がきれいに並べられて、半年に一度、誰かが来た時だけ集まるような、宮殿の宴会場ではありません。

多くの人たちが、教会にそれを求めますがありません。

教会は、宮殿ではなくて居間なのです。

私は誰かの家を、突然訪ねるのが好きです。床にはおもちゃが転がっていて、ソファーには上着が置かれたまま、隅には汚れた靴下が放ってあって、素晴らしい!

なぜなら、そこが見せかけの場ではなく、生活の場だから。

もし、事前に伝えていたらまた違ってきますが、突然訪問したら、生活そのものの場を見ます。

そこに人が集まり、あらゆるノミや失敗、試練、問題を通して生きることを学ぶ。それが家族なのです。

時々人々は教会を見て、こう言います。「どうしてあんな所におもちゃがあるんだ？」

「あそこに臭い靴下がある。」「あんな所に上着があることをご存知ですか？先生。」

勿論知っています。ここでは、私たちはみんな家族だから。

時に、臭い靴下を放置するような、子供じみたことをしてしまうこともあります。でも、私たちは家族なんです。

そして、ここは居間。モデルルームでもなく宮殿の宴会場でもない。決してそうではない。

こうして私は、主と過ごす時間の中で悟ったのです。

「おっしゃる通りです、主よ。私の正直な気持ちは、1章であなたと二人で過ごした後、すぐに天国に行きたいです。でも、それはあなたのやり方ではありません。これからも、それは起こりません。あなたは教会を重視しておられるから。『私』ではなく『私たち』、『私の』ではなく『私たちの』。

主よ、あなたは教会の中に現れ、教会を通して見られるお方。教会の中で語り、教会に向かって語られるのです。2章と3章にあるように。」

私は本当に、心から感謝しています。

ご存知の通り、娘が天に召されて2年が経とうとしています。

木曜日の朝、私はここに来てその席に座り、主を礼拝していました。隣には妻、前では副牧師が集会を導いていました。

その日は聖餐式にあずかったのですが、その時、主が私たちに触れて、語って下さったのです。

それは、将来起こる本当の祝宴の様子でした。

そこには、娘と一緒に、それまでに天に召された全ての兄弟姉妹たちが、これから催される小羊の婚宴の中にいたのです！

それは、ほんの短い時間でしたが、私たちは娘を思って、とても嬉しくなり、心は平安で満たされました。

もし、教会がなかったら、私はどこへ行っていたでしょう。何をしていたでしょう。どうなっていたでしょう。

今、主の臨在の中でみなさんに伝えたいのです。

あなた方のことを主に感謝しています。私たち全員にノミがいる、そういう家族であるみなさんのことを。

祈りましょう。

父よ、あなたの導きに間違いはありません。

教会と呼ばれるこの集団の中心に、イエス様、あなたはおられます。あなたは教会を想い、教会に自らを捧げられました。

私たちは、初めはわからなくても、体験を重ねるにしたがって、あなたの知恵と義と美を見ることができるようになります。

私と私たちを教会の一員にして下さったことを感謝します。また、私は特にこの教会に感謝しています。

私たちが共に集まり、交わり、互いに耳を傾け合い、受け入れることによって、あなたの御子についての黙示が、はっきり見えるようにして下さい。

父よ、教会を祝福して下さい。この集会を祝福して下さい。

交わりの中に、あなたの御子をはっきりと感じることができるよう、私たちに黙示をお与え下さい。

イエス様の御名によって祈ります。

アーメン

教会はキリストのからだであり、いっさいのものを

いっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。(エペソ 1:23)